

「JREMファーム新潟」でパクチー栽培スタート JR東日本メカトロニクスによる工業化農業の取り組み ～ 人工環境型植物プラントの建設・運営にチャレンジ ～

JR東日本メカトロニクス株式会社（代表取締役社長：川野邊 修）は、JR東日本グループにおける技術サービス創造企業として、駅設備やSuicaなどの鉄道インフラを支えています。

今回、新たな事業として空調装置・消融雪装置などの工事・メンテナンスで培ってきた環境制御技術を生かし、工業化農業事業へ進出、新潟市秋葉区に人工環境型植物プラントである、パクチー量産プラント「JREMファーム新潟（通称：メカトロファーム）」を建設、2023年2月20日に事業を開始しました。

■目的

本事業はパクチー生産をスタート地点とし、当社技術ノウハウ活用による水耕栽培プラントの販売・メンテナンスを柱とした事業展開により、JR東日本グループが取り組む工業化農業のリーダーとなって地産地消・地域活性化・地方創生への貢献を目指します。

■経緯

2015年に工業化農業の事業化検討をスタート。植物プラントにおけるパクチー栽培の研究実績を持つ玉川大学農学部との共同研究により国内では数少ない人工環境によるパクチーの品質向上の取り組みを重ねてきました。

2019年に新潟市秋葉区の弊社施設内に栽培試験プラントを建設。更なる研究開発により品質の確保と事業化の見込みが立ったことから2022年12月にパクチー量産プラントである「JREMファーム新潟」を完成させました。

■量産プラント

「JREMファーム新潟」は床面積約180㎡、3段5列の栽培棚を有する人工環境型植物プラントで、空調機による温湿度管理とLEDによる照明時間、pH管理や肥料調合による水耕液のコントロールなどで年間を通して安定した品質で栽培でき、パクチー以外の品種にも対応可能です。2023年度内の「JGAP認証（注1）」取得を目指しています。



（注1）JGAP 認証：日本で農業を営む農家・団体が活用する農場管理の基準で、食の安全だけでなく労働安全や環境保全など生産工程など一定の要件を満たしていることにより認証が受けられる制度。

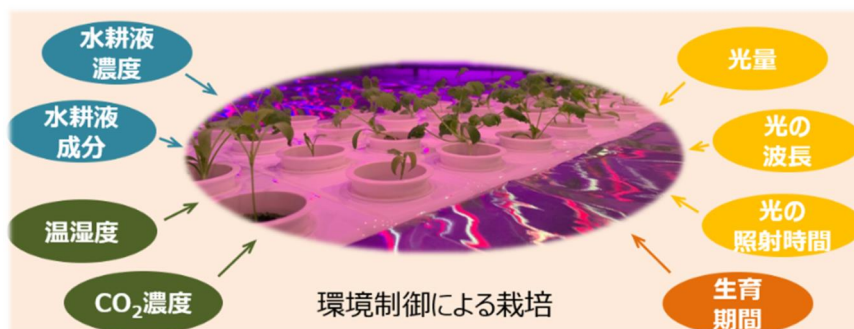
■栽培品

現在、「JREMファーム新潟」で栽培されるパクチーの名称は「めかぱく」。工業化(≒機械化⇒メカ)技術で生まれたパクチーという意味で、多くの人に親しみを持ってもらい、柔らかでかわいさをイメージしやすいひらがな表記としました。露地栽培品と比べてマイルドな風味が特徴で、パクパク食べられると好評です。衛生管理されたプラント内での栽培により虫などの混入もなく、保存による品質低下が抑えられます。

栽培作業は種植え、植え替えを経て6週間で収穫されます。収穫作業は月曜日から金曜日までの週5回行い、現時点での収穫量は1日当たり約7kgです。



【パッケージイメージ】



味・香り	マイルドな味わい 程良い香り
形質	きれいな色鮮やか
生産性	季節、天候に左右されず一定品質
安全性	虫などの混入がない
保存性	品質低下が抑えられる

「めかぱく」の特徴

■「めかぱく」の販売先

現在、新潟地区及び首都圏での販売に向けた調整を行っています。

【会社概要】

企業名：JR東日本メカトロニクス株式会社

代表者：代表取締役社長 川野邊 修

本社所在地：東京都渋谷区代々木二丁目1番1号新宿マインズタワー

設立：1992年4月1日

資本金：1億円

従業員数：1,422名（2022年4月現在）

事業内容：駅機械設備製造、ICカード・電子マネーソリューション、コンサルティング等

ホームページ：<https://www.jrem.co.jp/>

※「めかぱく」および「JREMファーム」、「メカトロファーム」はJR東日本メカトロニクス株式会社の登録商標です。

※「Suica」は東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。

【報道機関お問合せ先】

JR東日本メカトロニクス株式会社 経営企画本部 総務部 TEL 03-5365-3802